

建物概要 案内図

【工事概要】

工事場所：富山県富山市杉谷2630番地

建築面積：新外来棟：1,655.69㎡（増築）

延床面積：新外来棟：3,034.86㎡（増築）
中診・外来棟：7,706.30㎡（中央診療棟は一部設備改修）

構造階数：新外来棟：鉄骨造 地上3階建
中央診療棟：鉄筋コンクリート造 地上4階建

基本計画：内藤建築設計（株）

実施設計：【建築】内藤建築設計（株）
【設備】（株）新日本設備計画

工事監理：富山大学施設企画部施設整備課

施工：【建築】佐藤工業（株）北陸支店
【電気設備】北陸電気工事（株）
【機械設備】北陸設備工業（株）

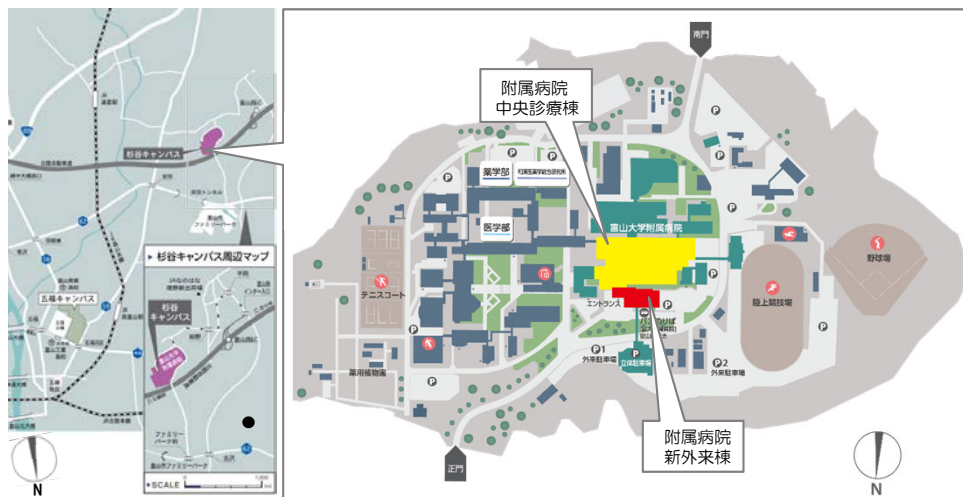
工期：平成26年3月～平成29年10月

富山大学附属病院中診・外来棟

Central Clinic Ward and Outpatients Clinic Ward,
Toyama University Hospital



富山大学 杉谷キャンパス



杉谷キャンパス 案内図

杉谷キャンパス 配置図

整備計画の概要

外来棟は、整備後30年以上経過し、老朽化による機能低下が著しく、近年の多様化する患者ニーズに対応できなくなっていた。待合と診療スペースにおける狭隘さが顕著であり、既存建物では対応が困難な状況であったため、既存外来に加え、新外来棟増築整備を行った。

コンセプト

外来再整備のコンセプト

※1、※2 PPP事業で整備済み

◆エントランス廻りのイメージアップ◆

立体駐車場※1からは雨・雪に濡れないよう渡り廊下※2で接続し、アプローチ面における患者サービスに配慮する。

利用者にとって入口が認識されやすいアプローチデザインとし、エントランスホールは2層吹抜けとすることで開放感を感じられる形態とする。

◆待合環境の改善◆ ～廊下から分離した落ち着いた待合環境～

主要動線となる廊下から中央に配置する待合スペースを『ロの字型』の診療室・検査室・処置室で囲み、周囲にスタッフ通路を配置することで、利用者とスタッフ動線が交錯しないゆとりのある空間を確保する。

◆外来診療機能の向上◆ ～診療スペース共用化等による機能の向上～

診察室の広さや設置する医療設備を統一化し、隣接する複数診療科での共用診察室として処置室の稼働率を向上させるとともに、スペースを有効利用し、患者案内表示を導入するなど診療機能を高める。

◆医療福祉サポート機能の充実◆ ～医療サポート機能の向上～

医療福祉サポートセンターをエントランスホールに隣接させ、利便性の高い配置計画とすることで患者サービスの向上を図る。

●小児科● 空調機械設備【新外来棟(増築部分)】

大規模感染が発生した場合、小児科エリアで対応できるよう、エリアの換気空調をアナンシエーター(空調制御盤)で制御。エリア全体を一括緊急排気により他エリアへの感染予防に備える。

アナンシエーター
(空調制御盤)



待合(整形外科)

●エスカレーター●【新外来棟(増築部分)】

運転速度(2段速 30・20m/min) 規格型インバータ(フルタイム式)
階段幅: 604mm 傾斜角度: 30度 階高: 4,500mm



エスカレーター

患者呼出システム



●待合【整形外科】●【外来棟(改修部分)】

従来の廊下待合を廃止、中待合として配置することで、十分な廊下幅員を確保し、ゆとりある待合環境を実現。また、患者呼出システムを導入し、『呼出の見える化』とすることで、利用者サービスが向上した。



●エントランスホール●【外来棟(改修部分)】

エントランスホールの中央柱に非常用コンセントを設置。非常時、災害時にホールで起こりえる緊急的な電源や病院LANの使用が可能となった。BCP初期動作の支援設備としても活用。



非常用コンセント



エントランスホール(2層吹抜け)

●医療福祉サポートセンター●

エントランスホールに隣接させ、病院1階受付窓口との連続した動線を確保することで利便性の高い配置計画とした。



医療福祉サポートセンター
(エントランスホール)

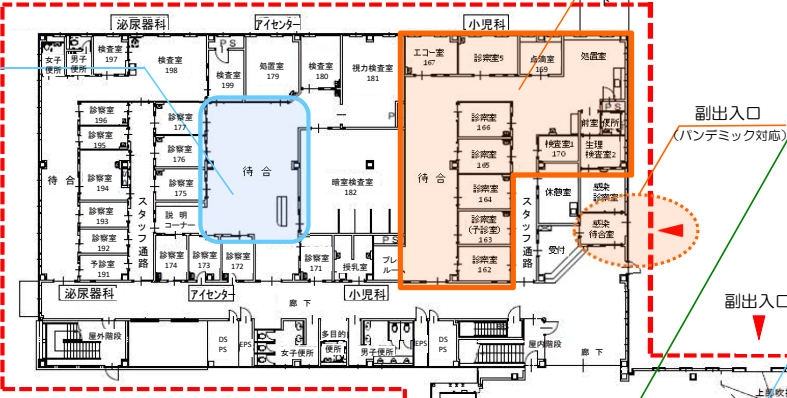


待合(アイセーター)

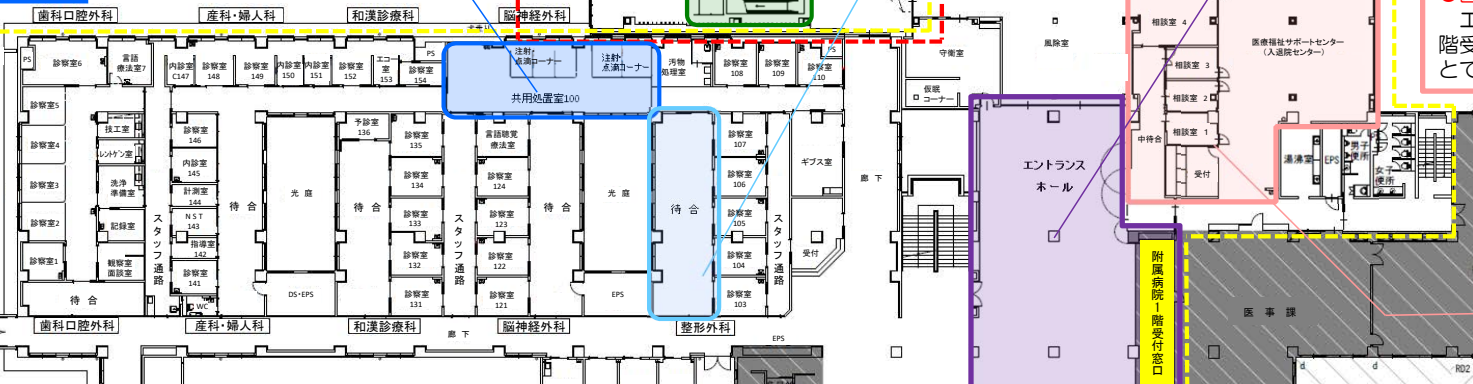


共用処置室100

新外来棟(増築)



外来棟(改修)



附属病院 1階平面図